5　東京法学院総代露国皇太子を慰問

〔『法学新報』第二号　明治二十四年五月二十五日〕

○東京法学院総代露国皇太子を慰問

我皇室我臣民の崇重敬愛する所の
露国皇太子殿下か御漫遊の途次本月十一日滋賀県大津に於て狂
豎津田三藏の為めに不慮の御災難を蒙らせ賜ひたることは実に
近来の一事変にして我国の不幸之より大なるはなく目睹せしも
のは憤怒し耳聴せし輩は痛嘆し日本全国誰れ一人として目に涙
を浮へさるはなかりき我
皇上陛下が殊に龍駕を枉け賜ひて親しく殿下の安否を候はせ賜
ひたるなと云ふもなか〳〵に恐れ多きことどもなり東京法学院
にても特に花井卓藏氏を派して御見舞を申上ることとなり同氏
は去る十三日の夜汽車にて出立し翌十四日午後四時京都に着し
二条城外跪ひて
皇上陛下の御苦労を拝謝し奉り夫れより直に神戸に趣(ママ)きたるに
最早や午後八時の頃となりたるを以て其翌十五日午前八時東京
新組合代言人総代丸山名政氏と共に宮内省御用邸に候して　殿
下の御安否を伺ひ参らせ兼て東京より齎し来りたる御慰問状を
奉呈し更らに露国公使を東洋ホテルに訪ひ親く　殿下御負傷の
御見舞を申述へしに公使は慇懃に謝意を表し　殿下の御負傷は
余程御快方に向はせられたるに付き御心配に及はす尚御見舞の
ことは　殿下に具上すべし　殿下も定て御満足に思はせらるゝ
ならんとの挨拶ありしと云ふ尚同氏は去る十七日午後五時三十
分山田、三崎、丸山等の諸氏と共に帰京せられたり因に云ふ同
氏が奉呈したる御慰問状ハ左の如し

東京法学院講師卒業生々徒一同ハ我カ国ノ大賓タル
露国皇太子殿下カ滋賀県大津ニ於テ狂豎ノ変ニ遇ヒ賜ヒタ
ル報ニ接シ痛嘆慚愧措ク所ヲ知ラス仍テ総代花井卓藏ヲ特
派シ
尊体ノ安否ヲ候ハシメ且其速カニ健康ニ復シ賜ハンコトヲ
祈ル

東京法学院

明治二十四年五月十日　講師卒業生々徒頓首百拝